# 感冒（かぜ）

## 原因

・かぜの原因の9割以上はウイルス感染ですが、一部に溶連菌などの細菌やマイコプラズマ、クラミジアが関係します。
・かぜウイルスは100種類以上知られてますが、代表的なものは約10種類です。
・季節にあまり関係なく主に鼻かぜを起こすライノウイルス、コロナウイルス、夏を中心に腹痛、下痢などおなかの症状を伴いやすいエンテロウイルス、エコーウイルス、コクサッキーウイルス、春や秋のかぜに多いアデノウイルス、パラインフルエンザウイルス、冬に多くて子どもに重症の肺炎を起こすことのあるRSウイルス 、インフルエンザウイルスなどが代表です。

## 症状

・通常、体のだるい感じや寒気、のどや鼻の乾燥感などが1～2日続いたあと、のどの痛みや鼻水、鼻づまり、頭痛、発熱などが現れます。
・そのまま治ることも多いのですが、引き続いて咳や痰が出たりします。

## 診断と治療

・かぜの症状は誰でもわかりますが、どのウイルスが原因なのか、細菌によるかぜなのかの判別は医師にも難しいです。
・肺炎や気管支炎などへの広がりを確かめるためには、聴診器で肺の音を聞きます。
・場合によっては血液をとって白血球の数を調べたり（ウイルスによる場合は通常減り、細菌による場合は増える）、炎症反応（CRPなど）を調べたりします。
・また、肺炎になっていないかどうかを確認するために胸部X線検査を行うこともあります。
・かぜの治療は大きく2つに分けられ、体力を弱らせてしまうような症状を抑える対症療法がそのひとつです。
・解熱薬、鎮痛薬、抗炎症薬、うがい薬、整腸薬、点滴などです。
・もうひとつは原因療法で、かぜの原因であるウイルスや細菌（ウイルス感染に続いて発症することが多い）を直接退治する根本的な治療です。
・細菌に効く抗菌薬はたくさんありますが、インフルエンザウイルス以外のかぜウイルスに効く薬はまだありません。
・かぜは通常、すぐに受診する必要はありません。安静や市販の感冒薬で治ることが多いからです。
・自宅で保温と保湿を十分にし、栄養と睡眠をしっかりとれば、数日で治ります。

## 急患診療センターを受診するめやす

**・65歳以上の人、老人ホームなどの施設で集団生活をしている人、慢性の肺の病気や心臓病の人、糖尿病や腎臓病などで治療を受けている人、アスピリンによる治療を受けている小児、妊婦などは、それ以外の人に比べてかぜが重症化しやすく肺炎などに進みやすいので、早目に医師の診察を受けてください。**

新潟市急患診療センター（電話025-246-1199）
http://www.niigata-er.org

© 2014 Niigata City Emergency Medical Center